

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	膵癌術後予後に及ぼす周術期赤血球製剤輸血の影響の解明		
2. 対象患者	2007年から2018年の間に、当科において膵癌に対して手術をされた方を対象とします。		
3. 対象となる期間	2007年1月1日～2018年12月31日		
4. 実施診療科等	弘前大学医学部附属病院 消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科		
5. 研究責任者	氏名	脇屋 太一	所属 消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	本研究は弘前大学のみで実施されます		
7. 研究の意義	<p>膵癌の成績向上は全世界の喫緊の課題です。膵癌患者は、手術前より貧血を合併していることが多く、また膵手術の侵襲により赤血球製剤輸血を必要とすることがあります。赤血球製剤輸血は免疫を抑え、癌患者で感染性合併症の増加や抗腫瘍免疫の低下を来し、術後の成績を悪化させることが指摘されています。一方で、影響しないとする報告もあり、結論は得られていません。</p> <p>仮に、赤血球製剤輸血が術後成績に悪影響を及ぼすとすれば、赤血球製剤輸血回避を目的とした戦略は、結果として膵癌患者の成績向上に貢献することが期待されます。したがって、膵癌患者における手術前後の期間(これを周術期と呼びます)における赤血球製剤輸血と術後成績との関連を明らかにする意義があります。</p>		
8. 研究の目的	膵癌術後成績に及ぼす周術期赤血球製剤輸血の影響を明らかにすることを本研究の目的とします。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合があります)	通常診療の範囲内で得られた既存の情報を解析します。介入を行わず、新たに試料採取は行いません。カルテを利用し、病歴、年齢、性別、血液検査、画像検査、手術関連情報、病理検査などの情報を使用します。赤血球製剤輸血を必要とした方とそうでない方に分けて、術後成績を比較します。		
10. 個人情報の保護	患者さんの名前をふせて(匿名化)、臨床情報を使用します。匿名化するための対応表は入室管理された部屋の鍵のかかるキャビネット内で保護をして講座内に保存されます。患者さんが解析対象となることを望まない場合、研究対象から除外します。診療情報の利用について拒否の申し出をされた場合であっても、当科での診療において何ら不利益を受けません。同意は、いつでも理由を問うことなく、自由意思で撤回できます。ただし、拒否の申し出をされた時点で既に学会等で成果を公表している場合、公表済の内容についての修正はできません。		
11. 利益相反に関する状況	本研究は通常の診療範囲内で行われるため、特別な資金源を必要とするものではありません。起こり得る利益相反について特記すべき事項はありません。		
12. 連絡先	消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科 脇屋太一		
	電話	0172-39-5079	FAX 0172-39-5080